

## 福岡県職員になって

田川県土整備事務所  
技師 上村 昇大

田川県土整備事務所へ配属になって1年が経とうとしています。学生時代には長く感じていた1年という月日の流れが、とても早く感じられます。それだけ、今まで経験したことの無い新たなことに直面しながら、多くのことに時間を費やしてきたためだと思います。

このたび本誌に寄稿する機会を与えていただいたため、この機会を利用して私の新米県職員・土木技術者としてのこれまでを振り返らせていただきます。

### ●県職員のはじまり

平成28年4月1日に行われた県庁での辞令交付式では、1人ずつ辞令が手渡され、福岡県の職員になれた喜びと同時に、仕事に対する大きな重圧と責任を感じました。

しかし、受け取った辞令に目を通すと“田川県土整備事務所”という文字が目に入り、その時に抱いていた様々な感情が消えて無くなったことを覚えています。田川とはいったいどこなのか。なぜならば、私は県南の柳川市出身で“田川”という地名を知らなかったからです。ただ以前聞いたことがあるような……。一抹の不安が心によぎります。

その後、田川県土の先輩方との意見交換会がセッティングされていたため、その場でいろいろな話を伺うことができました。ただ、覚えているのは「ジャージ・運動靴・グローブだけは忘れないで」と、ある先輩に言われたことだけです。ますます“田川”という地名が気になりつつ、事務所への初出勤を迎えました。

初出勤の日は、人生で一番緊張していたといっても過言ではありません。そのせいかその日のことはあまり覚えていません。しかし、昼休みになった途端ジャージに着替え、グローブ片手に公園まで走ってキャッチボールをして、また走って事務所に帰る...「この事務所はなんだ?」と思ったことは、今でも鮮明に覚えています。

### ●技術者のはじまり

私は、道路建設課建設第二係に配属され、土木技術者としてのスタートをきり、街路事業の担当となりました。最初に任された大きな仕事は、予算要望の資料作成でした。しかし、「街路事業とは?この要望は今年の話?来年の話?・・・」と1つの作業でいくつもの疑問や理解できない状況が発生します。さらに、請負業者との打合わせ等でも係長や先輩のやり取りに耳を傾けることで精一杯な日々が続きました。

大学で土木工学を専攻し、土木技術者として採用されたとはいえ、実務能力がないこ

とを痛感したところです。

● はじまりを振り返り、今後

私は4月からこれまでの間、新規採用職員として上司や先輩方に指導していただきながら働いてきました。先輩方は、私の些細な疑問にも真剣に対峙してくださり、自分の貴重な時間を割いて指導していただいています。

お陰様で、最初は右も左も分からない状況でしたが、実務を通して社会人としてのマナーや仕事のやり方を教わり、自分の担当外の工事の現場等を経験させてもらうことで、今は「右ぐらい」は分かるようになったのではないかと自分なりに思っています。優しく、そして時には厳しい上司や先輩方には大変感謝しています。

しかし、今日まで指導してくださった先輩方に感謝するのは当然であり、今後は長い時間が掛かっても恩返しをしなければなりません。私が考える最大の恩返しは、私自身が社会人として、また土木技術者として一人前になることだと考えます。そのためにも新規採用職員として学べる今の環境を決して無駄にせず、日々の業務に励んでまいります。